

横須賀市で初の—小栗上野介展開催

◆ほんとうの「幕末明治日本の産業革命の地」—横須賀製鉄所創設150周年記念◆

横須賀製鉄所から見た「日本の近代化は幕末から〜」という、ほんとうの歴史。

◇11月13日(金)~22日(日) 横須賀市文化会館で開催 小栗上野介顕彰会 協力:東善寺



小栗上野介顕彰会

顕彰慰霊碑
高崎市倉淵町水沼河原

▲顕彰慰霊碑タペストリー 小栗展に合わせ顕彰会が新調した東郷元帥が小栗家遺族に日本海戦勝利の礼を述べたことは、個人的なこと。明治以来の政府が小栗上野介を逆賊としてその業績を無視抹殺してきたことは変わらない。この碑を建てるにも碑文にクレームが付いて村人の苦心があり、戦後も「小栗上野介は軍港横須賀造船所を造ったから、軍国主義者」とされ、「上毛かるた」の原稿から外されたことも、今回の展示に含めた。

2000人を越す参観者



▲フランス人の団体を案内するポラック氏 遠く岡山県からも小栗ファンがやってきて、「20年前から気になっていた」と食い入るように見ている。

展示の構成

パネルや遺品など約200点を次のテーマで展示した。
・開国 ・遣米使節の旅 ・小栗上野介とは ・横須賀製鉄所建設
・富岡製糸場 ・上州土着の夢むなし ・小栗上野介の顕彰

◇ダナ駐日仏大使が参詣 11月21日(土)

6月に着任したダナ駐日フランス大使は、横須賀製鉄所建設が日仏交流の原点であることから、梅津群馬日仏協会事務局長の案内で参詣。墓参献香のあと、本堂でパリのテロ犠牲者供養の読経に参列し焼香しました。記者の質問に「横須賀製鉄所創設150周年の締めくくりにお参りできてよかった」と答えていました。



横須賀製鉄所の—特徴三つ

1. 幕末から蒸気機関を原動力として稼働

富岡製糸場のモデルといわれる長さ300mの製綱所は慶応二年に完成し、蒸気機関で日本初の工業ロープを製造していた。その他の工場も完成すると逐次蒸気機関で稼働した。幕末日本の産業革命の地である。

2. 何でも造る総合工場だった

たんなる軍艦製造所ではない。鉄製品から船体の木工品、ロープ、帆とあらゆる工業製品を造り、部品を集めて「船も」造る総合工場だった。

3. 覺舎・機関学校など人づくりの教育施設があった

ものづくりの原点は人づくり。優秀な技師や職工を育て、後の造船大国日本の基礎となる人材育成をしていた。

◇横須賀製鉄所創設150周年を記念して

ヴェルニー・小栗祭式典

11月15日(日) 10:30 横須賀市ヴェルニー公園

製鉄所創設150周年にあたるので関係者も多く参列、高円宮妃殿下のご臨席があり、フランスからもヴェルニーや会計担当モンゴルフィエの子孫が加わった団体が参加して、にぎやかな式典となった。

市長から感謝状をいただく

小栗上野介の研究を通して横須賀市の発展に寄与した」として吉田雄人市長から、市川平治小栗上野介顕彰会長・日仏交流研究家クリスチャンポラック氏と住職に感謝状が贈られた。倉渕での小栗上野介顕彰は道子夫人らの会津への脱出護衛に始まり、以来多くの先人が携わってきている。そういった人々を代表するという思いで、市川会長ともどもありがたく頂戴した。



倉渕中学校音楽部が共演海上自衛隊横須賀音楽隊と倉渕中学校生徒が吹奏楽「小栗のまなざし」を共演し、式典を盛り上げた。



◇講演 村上泰賢「幕府の運命、日本の運命」 会場 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット 主催：横須賀市開国史研究会 講演後の山本詔一会長との対談では、参加者からの質問票により・通訳はどんな人が行ったのか・栗本鋤雲のこと・権田で東善寺からいったん脱出しながら、途中からなぜ再び寺へ戻ったのか・小栗の経済観はどこで養われたかを語りました。



◇NHK ②チャンネル「知恵泉 ちえいず」で

小栗上野介を放映します



2月2日(火) 22時~
2ch Eテレ

・NHK Eテレの歴史番組として人気の「知恵泉」

で小栗上野介の業績を紹介するというので、12月に取材がありました。NHK横浜局が企画したもので、横須賀製鉄所創設150周年に絡め、小栗上野介の知恵に学ぶ構成の番組となるそうです。

小栗上野介関連の本

◇復刊『維新正観』 蜷川新著 (批評社) 2500円

・著者は小栗上野介の甥。昭和3年『維新前後の政争と小栗上野介の死』を刊行。水沼河原の顕彰慰霊碑の碑文を揮毫。まず序文で【「維新」の名は美しく世人に響くけれども、事實は極めて醜悪に満ちている。われわれが国定教科書で教えられたことの大部分は、欺瞞の歴史である…】と痛烈に批判する。

◇『明治維新という過ち』 (会津編) 原田伊織著・歴史春秋社

・【…坂本龍馬という男は長崎・グラバー商会の営業マン的な存在であったようだ。薩摩藩に武器弾薬を買わせ、それを長州藩に転売することができれば、彼にとってもメリットがある。グラバー商会とは、清國でアヘン戦争を推進して中国侵略を展開した中心勢力ジャーディン・マセソン社の長崎(日本)代理店である…】(はじめに) *そのグラバー邸が日本政府の推薦で「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産になってしまった。

◆神田御茶ノ水のタウン誌『本の街』の連載終了

平成18年(2006)8月号から9年6ヶ月、月刊で114回連載してきた村上泰賢『駿河台のお殿様・小栗上野介の日本改造』は紙面縮小により平成28年1月号をもって未完終了となりました。ギャラなしとはいえ、長い間貴重な紙面を提供していただいたことに感謝し、ご愛読下さった方にも御礼申し上げます。

◇ネジの業界新聞「ファスニングジャーナル」紙(毎月27日号)の連載「わが国産業革命の始まり」は続いています。

◇幕末の歴史・小栗上野介ファンの方へ

会員になって下さい—— 東善寺 たつなみ会



倉渕町の小栗上野介顕彰会ではさまざまな顕彰活動をしています。倉渕地区の人口減で顕彰会員が減っています。東善寺の「たつなみ会」会員には、顕彰会機関誌『たつなみ』を発行のつど顕彰会から購入してお送りし機関誌代が顕彰会の活動資金に役立っています。また東善寺発行の「小栗上野介情報」や「東善寺だより」などで、小栗上野介・幕末関連の最新情報をお送りします。

□たつなみ会会費 年1300円

□お申し込みは：東善寺へメールまたは電話、ハガキで

□ご送金は：郵便振替「東京00120-1-406206東善寺」へ